

専門基礎分野

【科目】解剖生理学 I	【単位数・時間】2 単位(45 時間)
【担当講師】土肥 容子 ¹⁾ (消化器系他)、阿南 隆一郎 ²⁾ (循環器系)、巻幡 聰 ³⁾ (呼吸器系)、 上村 康介 ⁴⁾ (腎・泌尿器系)、宮内 大知 ⁵⁾ (腎・泌尿器系)、緒方 健一 ⁶⁾ (消化器系他)、 田中 洋 ⁷⁾ (消化器系他)、杉原 栄孝 ⁸⁾ (消化器系他)、光浦 智証 ⁹⁾ (消化器系他)、 澤口 朗 ¹⁰⁾ (解剖学標本示説見学) 【開講時期】第 1 学期～2 学期 【配当年次】1 年	
【所属・職位等】1) ～5) 院内非常勤講師、医師 1) 消化器科医師 2) 臨床研究部長 3) 呼吸器外科部長 4) 5) 腎・泌尿器科医師 6) 外科医長 7) 8) 9) 外科医師 10) 宮崎大学医学部解剖学講座教授	

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造と機能を学ぶ。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能の関連性を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

微生物学や生化学の知識を基に、看護技術、看護方法論につなげていく。

【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回～ 第 2 回	1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 1) 人体の素材としての細胞・組織 2) 構造と機能からみた人体	土肥 容子
第 3 回～ 第 4 回	2. 老化のしくみ 3. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機能 3) 体温の調節機能	土肥 容子
第 5 回～ 第 9 回	2. 栄養の消化と吸収 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 (1) 口・咽頭・食道の構造 (2) 口・咽頭・食道の機能 咀嚼と嚥下 2) 腹部消化管の構造と機能 (1) 胃・小腸・大腸の構造 (2) 胃における消化 (3) 小腸における消化 (4) 栄養素の消化と吸収 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	緒方 健一 田中 洋 杉原 栄孝 光浦 智証
第 10 回～ 第 13 回	4. 呼吸と血液のはたらき 1) 呼吸器の構造と機能 (1) 上気道 (2) 下気道と肺 (3) 胸膜・縦隔	巻幡 聰

	2) 内呼吸と外呼吸 3) 呼吸運動 4) 呼吸器量 5) ガス交換とガス運搬 6) 肺の循環と血流 7) 換気障害と拡散障害 8) 血液の組成と機能	
第14回～ 第18回	5. 血液の循環とその調節 1) 心臓の構造 2) 心臓の拍出機能 (1) 心臓の興奮とその伝播 (2) 心電図 (3) 心臓の収縮 2) 末梢循環系の構造 (1) 血管の構造 (2) 肺循環の血管 (3) 体循環の動脈 (4) 体循環の静脈 3) 血液循環の調節 (1) 血圧 (2) 血液の循環 (3) 血圧・血流量の調節 (4) 微小循環 4) リンパとリンパ管 (1) リンパ管の構造 (2) リンパの循環	阿南 隆一郎
第19回～ 第20回	6. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路(尿管・膀胱・尿道)の構造と機能 3) 体液の調節 7. 生殖機能 1) 男性生殖器の構造と機能	上村 康介、 宮内 大知
第21回～ 第22回	8. 解剖学示説見学実習	澤口 朗

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院
からだの地図帳 講談社

【参考文献】

ステップアップ解剖生理学ノート (サイオ出版)

【授業外における学修方法及び時間】

毎回学習した範囲の内容を復習する。

専門基礎分野

【科目】解剖生理学Ⅱ	【単位数・時間】2単位(45時間)
【担当講師】吉住 秀之 ¹⁾ 、外山 勝浩 ²⁾ 、石井 隆雄 ³⁾ 、岩佐 一真 ⁴⁾ 、黒木 智文 ⁵⁾ 、徳永 修一 ⁶⁾ 、阿部 謙太郎 ⁷⁾	【開講時期】第2学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】1)副院長、2)耳鼻咽喉科医長、3)内科医師、4)・5)整形外科医師、6)産婦人科医長 周産期・母子医療センター長	7)宮田眼科病院医師

【授業における到達目標】

正常な人体の細胞・組織・器官の構造と機能および各機能の関連性を学ぶ。

【授業の概要】

正常な人体の細胞、組織、器官の構造と機能及び各機能の関連性を学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

微生物学や生化学の知識を基に、看護技術、看護方法論につなげていく。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師
第1回	1. 神経系の構造と機能 1) 神経細胞と支持細胞 2) ニューロンでの興奮の伝導 3) シナプスでの興奮の伝導	吉住
第2回	2. 脊髄と脳 1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能	
第3回	3. 脊髄神経と脳神経 1) 脊髄神経の構造と機能 2) 脳神経の構造と機能	
第4回	4. 脳の高次機能 1) 脳波と睡眠 2) 記憶 3) 本能行動と情動行動 4) 内臓調節機能 5) 中枢神経系の障害	
第5回	5. 運動機能と下行伝導路	
第6回	6. 感覚機能と上行伝導路	
第7回	1. 耳の構造 1) 外耳 2) 中耳 3) 内耳 2. 聴覚 1) 中耳の役割 2) 内耳での感音機構 3) 聴力の検査 3. 平衡感覚 1) 三半規管と耳石器 2) 眼振 (ニスタグムス)	外山
第8回	4. 外気道 1) 鼻 (外鼻、鼻腔、副鼻腔) 2) 咽頭 3) 喉頭	外山

	<ul style="list-style-type: none"> 4) 発声と構音 5. 嗅覚と味覚 <ul style="list-style-type: none"> 1) 嗅覚器（鼻）の構造と機能 2) 味覚器（舌）の構造と機能 	
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 眼球の構造 2. 眼球附属器 <ul style="list-style-type: none"> 1) 眼筋 2) 眼瞼および結膜 3) 涙器 	阿部
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> 3. 視覚 <ul style="list-style-type: none"> 1) 調節と屈折 2) 視細胞と視物質 3) 網膜での情報処理 4) 色覚 5) 暗順応と明順応 6) 視力と視野 7) 瞳孔と対光反射 	
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自律神経による調節 <ul style="list-style-type: none"> 1) 自律神経の構造と機能 2. 内分泌系による調節 <ul style="list-style-type: none"> 1) 内分泌とホルモン 2) ホルモンの化学構造と作用機序 	石井
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> 3. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 <ul style="list-style-type: none"> 1) 視床下部－下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 膵臓 4) 副腎 5) 性腺 6) その他の内分泌腺 	
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> 4. ホルモン分泌の調節 <ul style="list-style-type: none"> 1) 神経性調節 2) 物質の血中濃度による自己調節 3) 促進・抑制ホルモンによる調節 4) 負のフィードバック 5) 正のフィードバック 	
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> 5. ホルモンによる調節の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) ホルモンによる糖代謝の調節 2) ホルモンによるカルシウム代謝の調節 3) ストレスとホルモン 4) 乳房の発達と乳汁分泌 5) 高血圧をきたすホルモン 	
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> 1. 骨格とは <ul style="list-style-type: none"> 1) 人体の骨格 2) 骨の形態と構造 3) 骨の組織と組成 4) 骨の発生と成長 5) 骨の生理的な機能 	
第 16 回	<ul style="list-style-type: none"> 2. 骨の連結 <ul style="list-style-type: none"> 1) 関節 <ul style="list-style-type: none"> (1) 関節の一般構造 (2) 関節の正常と可動性 (3) 関節運動の障害 2) 不動性の連結 	岩佐、黒木

第 17 回	3. 骨格筋 1) 骨格筋の構造 2) 骨格筋の作用 3) 骨格筋の神経支配 4. 体幹の骨格と筋 1) 脊柱 2) 胸郭 3) 背部の筋 4) 胸部の筋 5) 腹部の筋	
第 18 回	5. 上肢の骨格と筋 1) 上肢帯の骨格 2) 自由上肢の骨格 3) 上肢帯の筋群 4) 上肢の筋群 5) 前腕の筋群 6) 手の筋群 7) 上肢の運動	
第 19 回	6. 下肢の骨格と筋 1) 下肢帯と骨盤 2) 自由下肢の骨格 3) 下肢帯の筋群 4) 大腿の筋群 5) 下腿の筋群 6) 足の筋 7) 下肢の運動	
第 20 回	7. 頭頸部の骨格と筋 1) 神経頭蓋 2) 内臓頭蓋 3) 頭部の筋 4) 頸部の筋 8. 筋肉の収縮 1) 骨格筋の収縮機構 2) 骨格筋収縮の種類と特性 3) 不随意筋の収縮の特徴	
第 21 回	1. 女性生殖器の構造と機能 1) 卵巣 2) 卵管・子宮・膣 3) 外陰部・会陰部 4) 乳腺 5) 女性の生殖機能	徳永
第 22 回	2. 受精と胎児の発生 1) 生殖細胞と受精 2) 初期発生と着床 3) 胎児と胎盤 (1) 胎盤と臍帯 (2) 生殖器の分化と発達 (3) 妊娠中の母体の変化 (4) 分娩 (5) 胎児の血液循環	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院
からだの地図帳 講談社

【参考文献】

ステップアップ解剖生理学ノート (サイオ出版)
ナーシング・サプリ イメージできる解剖生理学 (メディカ出版)

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

専門基礎分野

【科目】 生化学	【単位数・時間】 1 単位（30 時間）	
【担当講師】 北島 久義	【開講時期】 第 1 学期	【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 都城医療センター薬剤部長		

【授業における到達目標】

生体物質の基礎的知識とその物質代謝について理解する。

【授業の概要】

生命の維持のために必要な人体の細胞レベルでの物質代謝の基礎的な知識を学ぶ。また、本科目での学習内容を栄養学や各病態学における学習につなげる。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（解剖生理学、栄養学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	生体の成り立ち生体分子
第 2 回	タンパク質の性質
第 3 回	酵素の性質と働き
第 4 回	生体内における糖質の代謝（1） 1）糖とは何か 2）糖の分類 3）糖質とエネルギー
第 5 回	生体内における糖質の代謝（2） 4）糖質とエネルギー 5）血糖の調節
第 6 回	生体内における脂質の代謝（1） 1）脂質の種類と化学的物質 2）脂質の代謝
第 7 回	生体内における脂質の代謝（2） 3）リポタンパク質と脂質代謝異常
第 8 回	アミノ酸およびタンパク質の代謝
第 9 回	核酸の役割
第 10 回	ホルモン（1） 1）ホルモンの種類 2）各種のホルモン
第 11 回	ホルモン（2） 2）各種のホルモン
第 12 回	ホルモン（3） 3）ホルモン関連物質

回数	内容（方法）
	ビタミン（1）
第13回	ビタミン（2）
第14回	食品中のエネルギー
第15回	まとめ
	終了試験

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

わかりやすい生化学（別冊ノート付）第5版 ニューベルヒロカワ

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる生化学・栄養学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】 栄養学	【単位数・時間】 1 単位（15 時間）
【担当講師】 宮永 朋子	【開講時期】 第 2 学期 【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 都城医療センター 栄養管理室長	

【授業における到達目標】

人体に必要な栄養素とその働きおよび健康状態に応じた栄養摂取の方法を学ぶ。

【授業の概要】

解剖生理学 I 及び生化学で学習した知識をもとに、人間が発育・成長し、健全な生活を営むために必要な栄養の基礎を学ぶ。また、健康障害により栄養管理を必要とする人に対する臨床栄養や管理、栄養サポートチームについても学習する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（看護技術Ⅲ：食事）を想起しながら、栄養管理を必要とする人の看護へと発展していく。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	1. 人間栄養学と看護 1) 栄養とは 2) 栄養素と人間の栄養状態 3) 保健医療における栄養学 4) 看護と栄養
第 2 回	2. 栄養素の種類と働き 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 6) 食物繊維 7) 水 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 1) 食物の消化 2) 栄養素の吸収 3) 血漿成分と栄養素 4) 栄養素の代謝 5) 吸収・代謝産物の排泄
第 3 回	4. エネルギー代謝 1) 食品のエネルギー 2) 体内のエネルギー 3) エネルギー代謝の測定 4) エネルギー消費
第 4 回	5. 病院食 6. 消化管術後の食事
第 5 回	7. 代謝性疾患の食事療法
第 6 回	8. 循環器、腎臓病の食事療法
第 7 回	9. NST まとめ
第 8 回	終了試験

【試験・課題等の内容】

授業で学習した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院
糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版 日本糖尿病協会・文光堂

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる生化学・栄養学 (メディカ出版)

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】微生物学	【単位数・時間】1単位（30時間）
【担当講師】後藤 義孝	【開講時期】第1学期 【配当年次】1年
【所属・職位等】農学博士	

【授業における到達目標】

医療現場に必要な基礎知識として病原微生物はもとより、広く微生物の性状を理解し、多様化する感染症とその予防や診断、治療について学習することで質の高い看護を提供することを目指す。

【授業の概要】

看護師は、医療従事者媒介感染を起こさないための知識と技術、細心の注意と遵守が求められる。微生物が人体に影響を及ぼす影響を中心に、人体の免疫機能および感染症についての基本的な知識を教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目（病理学Ⅰ、病理学Ⅴ：感染症、看護技術Ⅳ：感染防止の技術）と関連させながら学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回～ 第2回	1. 微生物とは 1) 微生物の性質 2) 微生物と人間 3) 微生物学の対象と目的 4) 微生物学の歴史
第3回	2. 細菌の性質 1) 細菌の形態と特徴 2) 培養環境と栄養 3) 細菌の遺伝 4) 細菌の分類 5) 常在細菌叢 3. 真菌の性質 1) 真菌の形態と特徴 2) 真菌の増殖 3) 真菌の分類と命名法 4) 栄養と培養
第4回	4. 原虫の性質 1) 原虫の特徴と基本構造 2) 病原原虫の種類 5. ウイルスの性質 1) ウイルスの特徴 2) ウイルスの構造と各部分の機能 3) ウイルスの増殖 4) ウイルスの分類
第5回	6. 感染と感染症 1) 微生物感染の機構 2) 感染の成立から発症・治療まで 3) 細菌感染の機構 4) 真菌感染の機構 5) 原虫感染の機構 6) ウイルス感染の機構
第6回	7. 感染源・感染経路からみた感染症 1) 経口感染 2) 経気道感染 3) 接触感染 4) 経皮感染 5) 母児感染
第7回	8. 感染に対する生体防御機構 1) 自然免疫と獲得免疫のしくみ
第8回	9. 滅菌と消毒 1) バイオハザードとバイオセーフティー 2) 滅菌・消毒の意義と定義 3) 滅菌法 4) 濾過除菌 5) 消毒と消毒薬

回数	内容（方法）
	9. 滅菌と消毒 1) バイオハザードとバイオセーフティ 2) 滅菌・消毒の意義と定義 3) 滅菌法 4) 濾過除菌 5) 消毒と消毒薬
第9回	10. 感染症の検査と診断 1) 病原体を検出する方法 2) 生体の反応から診断する方法
第10回	11. バイオハザード、バイオセーフティ
第11回	12. 細菌学各論 1) レジオネラ菌～赤痢・サルモネラ菌
第12回	12. 細菌学各論 1) ペスト菌～結核・抗酸菌
第13回	12. 細菌学各論 1) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア 13. ウイルス学
第14回	13. ウイルス学各論 1) DNA ウイルス、RNA ウイルス
第15回	13. ウイルス学各論 1) プリオン病

【試験・課題等の内容】

講義で学習した内容から、試験を出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】治療法総論	【単位数・時間】1単位30時間
【担当講師】緒方健一 ¹⁾ 、田中洋 ²⁾ 、杉原栄孝 ³⁾ 、横山幸三 ⁴⁾ 、加治屋芳樹 ⁵⁾ 、仮上透 ⁶⁾ 、 中川かな子 ⁷⁾	
【開講時期】第2学期	【配当年次】1年
【所属・職位等】1) 外科部長、2) 外科医長、3) 外科医師、4) 都城医療センター麻酔科、 5) 画像センター長、放射線医長、6) 理学療法士長、7) 宮崎県移植推進 財団 臓器移植コーディネーター	

【授業における到達目標】

- ・健康障害に対して行われる内視鏡的治療について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。
- ・健康障害に対して行われる手術療法及び麻酔法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。
- ・健康障害に対して行われる放射線療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。
- ・健康障害に対して行われるリハビリテーション療法について理解し、人体に及ぼす影響について理解する。

【授業の概要】

- ・内視鏡的治療では、内視鏡検査および治療についての基本的な考え方を理解し、各病理学で学習する器官系統ごとの治療へとつなげていく。
- ・手術療法では、手術真宗が生体に及ぼす影響を学ぶ。術前・術中・術後管理については、呼吸管理、輸液・輸血管管理、栄養管理を含めた内容で教授する。
- ・放射線療法では、放射線療法の基本的な考え方を教授する。
- ・リハビリテーション療法では、リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、基礎看護学の看護技術Ⅰ（活動・体位・休息）と関連させながら教授する。
- ・臓器移植では、移植の種類と移植に伴う心身への影響を学び、それを基礎に臓器移植における看護師の役割について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、解剖生理学や病理学を想起しながら、看護方法論および成人看護方法論へとつなげていく。

【授業計画】

回数	内容（方法）	担当講師
第1回	1. 内視鏡的治療の特徴 2. 胃内視鏡	緒方健一 田中洋 杉原栄孝
第2回	3. 大腸鏡 4. 腹腔鏡下手術	
第3回	5. 胸腔鏡下手術	
第4回	1. 外科的治療とは 2. 手術侵襲と生体の反応 1) 手術侵襲と生体の反応 2) サイトカインによる生体調節機構 3) 手術侵襲と麻酔の役割	横山幸三
第5回	3. 麻酔法 1) 全身麻酔①	

回数	内容 (方法)	担当講師	
第6回	3. 麻酔法 1) 全身麻酔②		
第7回	3. 麻酔法 1) 全身麻酔③ 2) 局所麻酔、合併症		
第5回	4. 各種モニター 5. 輸血療法		
第6回	1. 放射線医学の成り立ち 1) 放射線とは 2) 画像診断の役割 3) 放射線治療の役割		加治屋 芳樹
第7回	2. 画像診断 1) X線診断の特徴と成り立ち 2) CT検査の特徴と成り立ち 3) MRI検査の特徴と成り立ち 4) 核医学検査の特徴と成り立ち		
第8回	3. 放射線治療 1) 放射線治療の原理 2) 放射線治療の基礎 3) 正常組織の有害反応 4) 放射線治療の特徴と目的 5) 照射法 6) I V R		
第9回	1. リハビリテーションの概念 2. 回復過程とリハビリテーション	仮上 透	
第10回	3. リハビリテーションの方法 (1) 不動・低活動の予防 (2) 活動の促進に向けた援助		
第11回	3. リハビリテーションの方法 (3) 肺理学療法 (4) 摂食嚥下訓練		
第12回	1. 臓器移植の基礎知識 1) 移植の分類 2) 移植免疫と拒絶反応 3) 臓器保存と再灌流障害 2. 移植の臨床 3. 臓器移植における看護師の役割 1) 臓器移植を受ける患者、家族の思い 2) 臓器移植に対する提供者、家族の思い 4. 脳死判定基準の改定に伴う最近の動向	中川 かな子	

【試験・課題等の内容】

講義で教授した内容から、試験を出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院

やさしくわかる内視鏡 検査・治療・ケア 田中 雅夫監修 照林社

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

看護学テキストシリーズ NiCE リハビリテーション看護 改訂第2版 南江堂

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅰ（病理学総論、腎・泌尿器系）	【単位数・時間】1単位 30時間
【担当講師】後藤 又朗 ¹⁾ 、上村康介 ²⁾ 、宮内大知 ³⁾	
【開講時期】第1～2学期【配当年次】1年	
【所属・職位等】1) 消化器外科医師、臨床研修センター長、統括診療部長 2)・3) 泌尿器科医師	

【授業における到達目標】

- ・人体における病的状態の原因、発生機序、経過について理解する。
- ・腎・泌尿器系統の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師
第1回	1. 病理学の領域 1)看護と病理学 2)病気の原因	後藤 又郎
第2回	2. 細胞・組織の傷害と修復 1)細胞の損傷と適応 2)組織の修復と創傷治癒	
第3回	3. 炎症と免疫 1)炎症とその分類 2)免疫と免疫不全 3)アレルギーと自己免疫疾患	
第4回	4. 感染症 1)感染と宿主の防御機構 2)おもな病原体と感染症 3)感染症の治療と予防	
第5回	5. 代謝障害 1)脂質代謝障害 2)タンパク質代謝障害 3)糖尿病 4)その他の代謝障害	
第6回	6. 老化と死 1)個体の老化と老年症候群 2)加齢に伴う諸臓器の変化	

	3) 個体の死と終末期医療	
第7回	7. 先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常 2) 遺伝子の異常と疾患 3) 先天異常・遺伝子異常の診断と治療	
第8・9回	8. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の広がりと影響 3) 腫瘍の発生病理 4) 腫瘍の診断と治療 5) 腫瘍の統計	
第10・11回	9. 乳腺の疾患 まとめ	
第12回	1. 症状と病態生理 1) 乏尿、無尿、頻尿 2) 血尿 3) 浮腫	上村 康介 宮内 大知
第13回	2. 主な検査法 1) 尿流動態検査 2) 膀胱鏡 3) 尿検査、腎機能検査、画像検査、腎生検 4) 男性生殖器の触診	
第14回	3. 主な疾患 1) 腎盂腎炎、膿腎症、腎周囲炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、精巣上体炎、精巣炎、尿路結核、性感染症、糸球体腎炎 2) 腎細胞がん、腎実質腫瘍、腎および尿管がん、膀胱がん、尿道がん、前立腺がん、精巣腫瘍、陰茎癌 3) 尿路結石症 4) 慢性腎臓病、腎不全	
第15回	4. 主な治療法 1) 回腸導管造設術 2) 放射線療法 3) 血液透析療法 4) 腹膜透析 5) 腎移植	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

専門基礎分野

【科目】病理学Ⅱ（呼吸器系、循環器系） 【単位数・時間】1単位 30時間
 【担当講師】今津 善史¹⁾、宮内 孝浩²⁾ 【開講時期】第2学期【配当年次】1年
 【所属・職位等】1) 呼吸器内科医長、2) 循環器内科医長

【授業における到達目標】

呼吸器系および循環器系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師
第1回	1. 症状と病態生理 1) 咳嗽・喀痰 2) 咯血 3) チアノーゼ 4) 呼吸困難 5) 胸痛	今津 善史
第2回	2. 主な検査法 1) 胸部 X-P 2) 胸部 CT 3) 断層撮影 4) 呼吸機能検査 5) 気管支鏡検査 6) 胸水検査 7) 肺生検 8) スパイロメーター 9) ガス交換機能検査 10) 動脈血ガス分析 11) 肺血管造影 12) 睡眠時呼吸モニタリング	
第3～5回	3. 主な疾患 1) 肺炎、気管支炎、感冒、インフルエンザ、間質性肺疾患 2) 気管支喘息、気管支拡張症 3) 慢性閉塞性肺疾患 4) 肺梗塞、肺血栓塞栓症 5) 肺腫瘍 6) 呼吸不全 7) 過換気症候群 8) 睡眠時無呼吸症候群 9) 自然気胸 10) 肺結核	
第6～7回	4. 主な治療法 1) 胸腔ドレナージ	

	2) 肺切除術：開胸術、胸腔鏡下手術 3) 酸素療法、非侵襲的陽圧換気（NPPV）、人工呼吸療法 4) 吸入療法、気道確保	
第 8～9 回	1. 症状と病態生理 1) ショック 2) 胸痛 3) 不整脈 4) 浮腫	宮内 孝浩
第 10～11 回	2. 主な検査法 1) 心電図 2) トレッドミル 3) 心筋シンチ 4) 心エコー、胸部 X 線 5) 心臓カテーテル法 6) 冠動脈造影 CT、MRI	
第 12～13 回	3. 主な疾患 1) 先天性心疾患 2) 虚血性心疾患：狭心症、急性心筋梗塞、冠危険因子 3) 心筋症、肺性心 4) 心不全 5) 不整脈 6) 心膜炎と弁膜症 7) 動脈硬化症 8) 血圧異常 9) 大動脈瘤、大動脈解離 10) 閉塞性動脈硬化症 11) 静脈瘤、静脈血栓症 12) 肺塞栓症 13) 上大静脈症候群 14) リンパ系疾患	
第 14～15 回	4. 主な治療法 1) PCI、CABG、人工血管置換術、スタントグラフト 2) IABP 3) 弁置換術 4) 人工心肺 5) ペースメーカー植え込み、植込み型除細動器、除細動、アブレーション	

【試験・課題等の内容】 終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】 終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院

【参考文献】 ナーシング・サプリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】 ナーシングチャンネルの視聴

専門基礎分野

<p>【科目】病理学Ⅲ（消化器系、生殖器系、内分泌系） 【単位数・時間】1単位 30時間</p> <p>【担当講師】緒方健一¹⁾、田中洋²⁾、杉原栄孝³⁾、徳永 修一⁴⁾、加藤 順也⁵⁾</p> <p>【開講時期】第2学期 【配当年次】1年</p> <p>【所属・職位等】1) 外科部長、2) 外科医長、3) 外科医師、 4) 産婦人科医長、周産期・母子医療センター長、5) 内科医長、栄養管理部長</p>
--

【授業における到達目標】

消化器系、生殖器系、内分泌系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

講義をとおして知識を深める解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

【授業計画】

回数	内容・方法	担当講師
第1回	1. 症状と病態生理 1) 黄疸 2) 吐血 3) 腹痛・腹部膨満 4) 嘔気・嘔吐 5) 下痢 6) 便秘 7) 下血 8) 意識障害	緒方 健一 田中 洋 杉原 栄孝
第2回	2. 主な検査法 1) 上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査 2) 門脈血管造影、PTCD、内視鏡的逆行性胆膵管造影(ERPD)、胆道造影 3) 上部消化管造影、下部消化管造影検、注腸造影 4) 直腸内指診、糞便検査	
第3～4回	3. 主な疾患 1) 食道アカラシア、胃食道逆流症 2) 胃・十二指腸潰瘍 胃炎 3) 食道がん、胃がん、大腸がん（結腸・直腸・直腸） 4) イレウス 5) 過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、感染性腸炎、クローン病 虚血性大腸炎、腹膜炎（急性・慢性）、虫垂炎、ヘルニア、憩室炎	

	<p>6)腸管ポリープ・ポリポーシス、急性腹膜炎</p> <p>7)肝炎（急性（A・B・C肝炎）・慢性）、胆石症 急性胆嚢炎・胆管炎、膵炎（急性・慢性）</p> <p>8)肝硬変、門脈圧亢進症、肝不全</p> <p>9)肝臓がん、膵臓がん、胆管がん、胆嚢がん、胆嚢ポリープ</p>	
第5～6回	<p>4. 主な治療法</p> <p>1) 食道再建術</p> <p>2)内視鏡的食道動脈瘤結紮術、内視鏡的ポリープ切除術 ピロリ菌除菌治療、内視鏡的止血術</p> <p>3)幽門側胃切除術、噴門側胃切除術、胃全摘術、姑息手術</p> <p>4)内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術</p> <p>5)回盲部切除術、結腸切除術、S状結腸切除術、直腸切除術</p> <p>6)腹膜鏡下胆嚢摘出術</p> <p>7)内視鏡的乳頭切開術、内視鏡的乳頭バルーン拡張術</p> <p>8)体外衝撃波結石破碎術</p> <p>9)人工肛門造設術</p> <p>10)胆道・胆のうドレーン、内視鏡的逆行性胆管膵管造影法</p> <p>11)肝庇護療法、インターフェロン療法、内視鏡的硬化療法 バルンタンポナーデ、経頸静脈的肝内門脈静脈短絡術 経カテーテル動脈塞栓療法</p> <p>12)肝切除術</p> <p>13)経皮的ラジオ波焼灼療法</p> <p>14)肝移植</p>	
第7回	<p>1. 症状と病態生理</p> <p>1)ショック 2)出血 3)帯下 4)疼痛 5)発熱</p> <p>6)下腹部膨満・腫瘤感 7)外陰部搔痒感 8)排尿障害</p> <p>9)自律神経症状・不定愁訴 10)リンパ浮腫</p>	徳永 修一
第8回	<p>2. 診察・検査</p> <p>1) 理学的検査</p> <p>2) 病理検査</p> <p>3) 最近・ウイルス・原虫検査</p> <p>4) 画像検査</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 5) 腫瘍マーカー検査 6) 妊娠検査 7) 内視鏡検査 8) 染色体検査、遺伝子検査 	
第9回	<p>3. 治療・処置</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 膣洗浄 2) 膣タンポン 3) 導尿 4) 腹腔穿刺 5) ダグラス窩穿刺 6) レーザー治療 7) 薬物療法 8) ホルモン療法 9) 手術 10) 避妊 	
第10～11回	<p>4. 主な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 性分化疾患 <ul style="list-style-type: none"> (1) 半陰陽 (2) 性染色体異常 (3) 遺伝子変異による性分化異常 2) 臓器別疾患 <ul style="list-style-type: none"> (1) 外陰の疾患 (2) 膣の疾患 (3) 子宮の疾患 (4) 卵管の疾患 (5) 卵巣の疾患 (6) 骨盤内炎症性疾患 3) 機能的疾患 <ul style="list-style-type: none"> (1) 月経異常・月経随伴症状 (2) 更年期障害 (3) 不妊症 (4) 不育症 4) 性感染症 	
第12回	<p>1. 症状と病態生理</p>	加藤 順也
第13回	<p>2. 主な検査法</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) ホルモン負荷試験 2) ホルモン血中・尿中濃度測定試験 	
第14～15回	<p>3. 主な疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 糖尿病 2) プロラクチン産生腫瘍、成長ホルモン産生腫瘍、クッシング病 非機能性下垂体腫瘍、下垂体機能低下症、成長ホルモン不全性低身長症 成人成長ホルモン分泌不全症、尿崩症、ADH 不適切分泌症候群 3) 慢性甲状腺炎（橋本病）、バセドウ病、破壊性甲状腺炎 甲状腺機能低下症、亜急性甲状腺炎、甲状腺腫瘍 	

	4) 副甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症 5) 原発性アルドステロン症、クッシング症候群 原発性副腎機能低下症、褐色細胞腫 6) インスリノーマ、ガストリノーマ、グルカゴノーマ、VIP 産生腫瘍 シマトスタチノーマ 7) 脂質異常症（高脂血症） 8) 高尿酸血症、痛風 9) メタボリックシンドローム、肥満症	
第 16 回	4. 主な治療法 1) インスリン補充療法、糖尿病治療薬 2) 食事・運動療法 3) 甲状腺ホルモン療法 4) 甲状腺切除術	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器系 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院

【参考文献】

ナーシング・サプリ イメージできる病態生理学（メディカ出版）

【授業外における学修方法及び時間】

ナーシングチャンネルの視聴

専門基礎分野

<p>【科目】病理学Ⅳ【単位数・時間】2単位(45時間)</p> <p>【担当講師】末原 雅人¹⁾(脳・神経系) 吉川 教恵²⁾ 黒木 智文³⁾(骨・筋系) 中山 文子⁴⁾(感覚器系：皮膚) 織田 公貴(感覚器系：眼)⁵⁾ 外山 勝浩(感覚器系：耳鼻)⁶⁾ 田畑雅士(感覚器系：歯)⁷⁾</p> <p>【開講時期】第1学期 【配当年次】2年</p> <p>【所属・職位等】1) 藤元総合病院・神経内科医師 2) 都城医療センター・整形外科医長、リハビリ部長 3) 都城医療センター・整形外科医師 4) 都城医療センター・皮膚科医師 5) 宮田眼科病院・医師 6) 都城医療センター・耳鼻咽喉科医長 7) 都城医療センター・歯科口腔外科部長 歯科口腔外科センター長</p>
--

【授業における到達目標】

1. 脳・神経系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
2. 骨・筋系の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
3. 皮膚の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
4. 眼の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
5. 耳鼻の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。
6. 歯、口腔の主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブ・ラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

【授業計画】

回数	内容(方法)	担当
1回目	症状とその主な病態生理(脳・神経系の役割、神経組織の機能と構造)	末原
2回目	検査の方法(画像診断、脳波検査、髄液検査、造影検査、生検、病理検査)	末原
3回目	治療・処置(薬物療法、放射線療法、手術療法、救急治療、内科的治療法)	
4回目	主な疾患の理解	末原
5回目	1) 脳血管障害(脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、もやもや病)	
6回目	2) 脳腫瘍	
7回目	4) 頭部外傷	
	5) 脊髄疾患	
	6) 末梢神経障害(ギランバレー症候群)	
	7) 神経・筋疾患(筋ジストロフィー、重症筋無力症)	
	8) 脳神経変性疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS))	
	9) 感染症(脳炎・髄膜炎)	
	10) 中毒	
	11) てんかん	
	12) 内科疾患に伴う神経疾患	
	8回目	運動器の構造と機能(骨、関節、神経と筋肉、腱と靭帯)
9回目	運動器疾患で生じる主な症状(疼痛、関節運動異常、四肢の変形及び脊柱の変形、運動麻痺、知覚障害、)	黒木
10回目	検査(画像検査、骨密度測定、造影検査、関節鏡、生検)	黒木
11回目	治療法(薬物療法、非薬物療法、外科的療法、装具・義肢)	吉川

12回目	主な疾患とその治療法 1) 骨折、脱臼 2) 捻挫、打撲	吉川
13回目	3) 神経の損傷、疾患（脊髄損傷、筋委縮性側索硬化症（ALS）） 4) 筋・腱・靭帯などの損傷、疾患（筋・腱断裂、膝内症、筋ジストロフィー） 5) 骨関節の炎症性疾患（変形性関節症、関節リュウマチ） 6) 骨腫瘍 7) 脊椎疾患（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、骨粗鬆症）	
14回目	1. 症状と病態生理 1) 発疹 2) 掻痒 3) 皮膚の老化 2. 主な検査法 1) 皮膚科的検査法 2) 病原微生物の検査法 3) 病理組織検査法 4) 分子生物学検査法 3. 治療法 (1) 全身療法 (2) 手術療法 (3) 削皮法 (4) 光線療法 (5) レーザー療法 (6) 温熱療法 (7) ケミカルピーリング (8) 凍結療法	中山
15回目	3. 主な疾患 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、尋常性疥癬、帯状疱疹、蜂窩織炎、腫瘍、褥瘡	中山
16回目	1. 症状と病態生理（視機能に関連した症状、外眼部、前眼部疾患に伴う症状） 2. 主な検査法 1) 視力検査 2) 屈折検査 3) 開瞼法・開瞼反転法 4) 細隙灯顕微鏡検査 5) 眼底検査・眼底画像診断 6) 眼圧検査・瞳孔検査 7) 涙液分泌検査 8) 視野検査・色覚検査 9) 屈折矯正・視野矯正 10) 視能矯正	織田
17回目	3. 主な疾患とその治療法 1) 機能の障害 (1) 屈折異常(近視・遠視・乱視) (2) 調節異常(老視・調節麻痺) (3) 色覚の異常 (4) 弱視 (5) 眼位・眼球運動の異常 2) 部位別の疾患 白内障、緑内障、網膜剥離、角膜移植、糖尿病網膜症、外傷、感染性疾患	織田
18回目	症状と病態生理 1) 耳に現れる症状と病態 2) 鼻に現れる症状と病態 3) 咽頭に現れる症状と病態 4) 喉頭に現れる症状と病態	外山
19回目	主な検査法 1) 聴力検査 2) 平衡機能検査 3) 副鼻腔検査 4) 耳管通気検査、内視鏡検査 5) 画像検査 6) 味覚検査、嗅覚検査 7) 手術療法	外山
20回目	主な疾患とその治療法 1) 耳疾患・聴力障害（難聴、メニエール病） 2) 鼻疾患・嗅覚障害 3) 咽頭・喉頭疾患（咽頭がん、喉頭がん） 4) 気道・食道・頸部疾患	外山
21回目	1. 症状と病態生理 1) 歯・歯周組織、口腔の症状 2) 顎口腔機能障害 2. 主な検査法 1) 口腔内検査	田畑

	2) 口腔外検査 3) 画像検査 他	
22 回目	3. 主な疾患とその治療法 1) 主な疾患 (1) 歯の疾患 (2) 歯周疾患 (3) 顎骨の疾患 (4) 口腔粘膜の疾患 (5) 舌の疾患 (6) 口腔領域の先天異常および発育異常 2) 主な治療 (1) 齲歯の治療 (2) 歯周疾患の治療 (3) 口腔外科の治療 (4) 歯科矯正治療 3) 口腔ケア	田畑
備考		

【試験・課題等の内容】

適宜、事前課題を要する

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

評価は、筆記による終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳・神経 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 皮膚 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯・口腔 医学書院

【参考文献】

病気がみえる 脳神経 メディックメディア

病気がみえる 運動器 メディックメディア

系統看護学講座 疾病のなりたちと回復促進 病理学

系統看護学講座 人体の構造と機能 解剖生理学

【授業外における学修方法及び時間】

1. ナーシングチャンネル 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系

2. 脳・神経系 骨・筋系 感覚器系に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

<p>【科目】病理学V 【単位数・時間】1単位(30時間) 【担当講師】柳邊 秀一¹⁾(感染症)、石井 隆雄²⁾(血液・リンパ系)、 中山 文子³⁾(アレルギー)、吉川 教恵⁴⁾(膠原病) 【開講時期】通年 【配当年次】2年 【所属・職位等】1) 周産期・母子医療副センター長 小児科医長、 2) 内科医師、3) 皮膚科医師 4) リハビリ部長 TQM 推進室長 整形外科医長</p>
--

【授業における到達目標】

主な疾患の病態、症状、検査、治療について理解する。

【授業の概要】

解剖生理学の知識をふまえ、感染症の病態、症状、検査、治療について教授する。

【アクティブラーニング】

解剖生理学の知識を想起しながら理解し、看護方法論へと発展させる。

【授業計画】

回数	内容(方法)	担当講師
1回目	1. 症状と病態生理 1) 感染症とは 2) 感染の成立と免疫 3) 感染症の病態生理 4) おこりやすい症状 2. 感染症の問題 1) 多剤耐性菌感染症 2) 結核 3) 院内感染	柳邊 秀一 他
2回目	1. 主な疾患と症状、検査及び治療 1) 性感染症 2) HIV/AIDS感染症 *検査:(1) 塗抹・培養検査 (2) 抗原検査 (3) 抗体検査 (4) HIV 検査 (5) 毒素の検査 (6) 原虫・寄生虫検査	
3回目	1. 主な疾患と症状、検査及び治療 1) 悪性腫瘍・幹細胞移植・固形臓器移植に伴う感染症 2) 新興・再興感染症	
4回目	1. 主な疾患と症状、検査及び治療 1) 菌血症・敗血症 2) 人動物咬傷 2. 予防接種	
5回目	1. 病態及び症状、主な検査と治療 1) 貧血 ①鉄欠乏性貧血 ②巨赤芽球性貧血 ③溶血性貧血 ④骨髓異形成症候群 ⑤二次性貧血 2) 白血球減少症	石井 隆雄

回数	内容 (方法)	担当講師
6回目	<p>1. 出血性疾患の病態及び症状 1) 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 2) 免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP) 3) 播種性血管内凝固 (DIC) 4) 血友病 4. 主な検査及び治療</p> <p>1. 病態及び症状: 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫 2. 主な検査: 1) 骨髄穿刺 2) 骨髄生検 3. 治療 1) 化学療法 2) 支持療法 3) 造血幹細胞移植 4) 文化誘導療法 5) 分子標的療法 6) 遺伝子治療</p>	中山 文子
7回目	<p>1. 病態及び症状: 1) 多発性骨髄腫 2) 成人T細胞白血病 2. 主な検査及び治療: 1) 骨髄穿刺 2) 骨髄生検 3. 治療 1) 化学療法 2) 支持療法 3) 造血幹細胞移植 4) 文化誘導療法 5) 分子標的療法 6) 遺伝子治療</p>	
8回目	<p>1. 免疫反応と病気 2. アレルギーに関与する免疫担当細胞と化学物質 3. アレルギーのしくみ 1) I型アレルギー 2) II型アレルギー 3) III型アレルギー 4) IV型アレルギー</p>	
9回目	<p>1. 主な疾患とその治療法 1) 気管支喘息 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 2) アレルギー性鼻炎 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療</p>	
10回目	<p>1. 主な疾患とその治療法 1) アトピー性皮膚炎 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 2) 接触性皮膚炎 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 3) シックハウス症候群 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療</p>	
11回目	<p>1. 主な疾患とその治療法 1) 薬物のアレルギー (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 2) 食物アレルギー (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 3) 蕁麻疹 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 4) アナフィラキシー (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療</p>	
12回目	<p>1. 膠原病とは 2. 自己免疫疾患とその機序 3. 主な症状とその病態生理 1) 関節痛・関節炎 2) 皮疹 3) 筋力低下 4) 腎炎 5) 血管炎 6) レイノー現象</p>	
13回目	<p>1. 主な疾患の理解 1) 関節リウマチ (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 2) 全身性エリテマトーデス (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療</p>	

回数	内容（方法）	担当講師
14回目	1. 主な疾患の理解 1) 強皮症 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 2) 多発性筋炎 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 3) シェーグレン症候群 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療	
15回目	1. 主な疾患の理解 1) 抗リン脂質抗体症候群 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療 2) ベーチェット病 (1) 症状と病態生理 (2) 検査 (3) 治療	

【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院

【授業外における学修方法及び時間】

各病態学に関する解剖生理、講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】薬理学 I	【単位数・時間】1 単位（15 時間）	
【担当講師】北島 久義	【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】都城医療センター薬剤部長		

【授業における到達目標】

薬物の特性と薬物療法の概要を理解する。

【授業の概要】

薬物および薬物療法全体に共通する内容について学ぶ。薬理作用、薬物動態、薬物使用の有益性と危険性については、解剖生理学と関連づけながら学ぶ。薬効の個人差に影響する因子については、老年看護学・小児看護学とも関連づけて学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては、関連する科目を想起しながら学習する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	薬理学を学ぶにあたって
第 2 回	薬が作用する仕組み
第 3 回	薬物の相互作用 薬効の個人差に影響する因子
第 4 回	薬物使用の有益性と危険性
第 5 回	薬と法律
第 6 回	薬物動態の応用と薬物と食品の相互作用
第 7 回	まとめ
	終了試験

【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院

【参考文献】

適宜紹介する。

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

回数	内容（方法）
第10回	抗感染症薬 1) 感染症治療の基礎 2) 抗感染症薬
第11回	抗がん薬 1) 抗がん薬の基礎 2) 抗がん薬
第12回	抗がん薬 1) 抗がん薬の基礎 2) 抗がん薬
第13回	免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 2) 免疫増強薬 3) 予防接種薬
第14回	免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 2) 免疫増強薬 3) 予防接種薬
第15回	まとめ

【試験・課題等の内容】

- ・学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
- ・終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

- ・終了試験 100%

【テキスト】

- ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

- ・毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論 I	【単位数・時間】1 単位（15 時間）	
【担当講師】冷牟田 浩司	【開講時期】第 2 学期	【配当年次】1 年
【所属・職位等】都城医療センター院長		

【授業における到達目標】

医学・医療の歴史の変遷について理解し、これからの時代における望ましい医療の在り方について学ぶ。また、国立病院機構及び母体病院での医療の特徴を理解する。

【授業の概要】

医学の現状と課題について学ぶことから、保険医療全般についての理解を深め、看護の学習へ発展させる。また、国立病院機構の役割と機能は、身近な存在である保険医療機関として医療への理解を深められるよう教授する。

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（看護学概論、社会学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	1. 医学・医療のあゆみ 1) 古代の医学、2) 中世の医学、3) 近代医学、4) 現代医療の基盤
第 2 回	2. 今後の医学・医療の方向
第 3 回	3. 健康と疾病 1) 健康の概念、2) 疾病の概念、3) 生活と健康
第 4 回	4. 医学と医療 1) 医学と医療の違い、2) 現代医療の本質 2) 医療における医師の義務と看護師の役割、4) チーム医療
第 5 回	5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 診療事業 (1) 5 疾病 ・がん・精神・脳卒中、糖尿病・急性心筋梗塞
第 6 回	5. 国立病院機構が担う医療 2) 診療事業 (2) 5 事業 ・救急医療・災害医療・周産期医療・小児医療・小児救急 ・へき地医療 (3)セーフティネット分野の医療
第 7 回	5. 国立病院機構が担う医療 3)臨床研究事業 4) 都城医療センターの医療 (1)都城医療センターの特徴 (2)都城医療センターが地域で担う役割
第 8 回	終了試験

【試験・課題等の内容】

課題は適宜提示する。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

終了試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メヂカルフレンド社

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。

専門基礎分野

【科目】保健医療論Ⅱ 【単位数・時間】1単位 15時間
【担当講師】冷牟田 浩司 【開講時期】第1学期 【配当年次】 2年
【所属・職位等】都城医療センター院長

【授業における到達目標】

1. 生命に対する価値観や倫理観を養う。
2. 我が国の医療供給体制、および医療をめぐる諸問題をとらえ、生命に対する価値や倫理について理解できる。

【授業の概要】

保健医療論Ⅰに基づいて、生命に対する価値や倫理について享受する

【アクティブ・ラーニング】

授業においては関連する科目（看護学概論、社会学）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	医療保険制度、提供体制
第2回	医療倫理
第3回	患者の権利、説明と同意
第4回	臨床医学研究と医療倫理
第5回	告知・終末期医療
第6回	先端医療と医療倫理
第7回	医療安全と医療倫理

【試験・課題等の内容】

- ・終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

筆記試験 100%

【テキスト】

新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 マガカレント社

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

保健医療に関する講義内容を深めるための学習

専門基礎分野

【科目】社会福祉	【単位数・時間】 2単位（45時間）
【担当講師】 安藤 実和子	【開講時期】 第2学期 【配当年次】 1年
【所属・職位等】 認定社会福祉士	

【授業における到達目標】

現代の医療・福祉を取り巻く諸問題について対応すべく、社会福祉制度や社会福祉サービスについての現状と課題について学習する。また、医療従事者として必要な社会福祉の知識を身につけることができ、制度や多職種・機関等との連携・協働についても知ることができる。

【授業の概要】

1. 生活と福祉
2. 社会保障の概念・歴史・制度体系
3. わが国の社会保険制度
4. 社会福祉の歴史と援助技術
5. 社会福祉の諸制度と施策
6. 社会福祉行政のしくみ
7. 社会保障制度の動向

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義に関する事前課題提示
- ・グループワーク
- ・校外学習

【授業計画】

回数	内容（方法）
第1回	・「生活と福祉」 : 福祉を学ぶ意味・『生活』と『ライフスタイル』の関係
第2回	・「生活と福祉」 : 人間としての働き ・「社会保障制度」 : 定義・目的と機能・財政
第3回	・「社会保険制度」 : 役割・分類 ・「医療保険制度」 : 種類・適用対象者・給付
第4回	・「高齢者医療制度」 : 後期高齢者医療制度等 ・「保険医療制度」 : 医療組織・診療報酬制度
第5回	・「医療提供体制」 : 医療提供施設・国民医療費 ・「介護保険制度」 : 介護保険制度創設の意義・改正
第6回	・「介護保険制度」 : 介護保険制度の概要（枠組み・認定とマネジメント）
第7回	・「介護保険制度」 : 介護保険制度の概要（保険給付、利用者負担等）
第8回	・「介護保険制度」 : 地域支援事業・費用負担 ・「年金保険制度」 : 年金制度のしくみ・国民年金の概要

回数	内容（方法）
第9回	・「年金保険制度」：厚生年金の概要・労働保険制度（雇用保険・労災保険制度）
第10回	・「社会福祉の歴史」：福祉に関する法と社会福祉基礎構造改革
第11回	・「社会福祉援助技術」：社会福祉援助技術の種類と活用場面
第12回	・「社会福祉の諸制度」：生活保護法と施策、生活保護制度の概要等
第13回	・「社会福祉の諸制度」：児童福祉と施策、児童福祉の実施体制
第14回	・「社会福祉の諸制度」：児童福祉施設の動向 障害児の福祉施策、学校教育との関係
第15回	・「社会福祉の諸制度」：障害者の福祉施策（3障害について）
第16回 第17回	・校外学習
第18回	・「社会福祉の諸制度」：「障害者総合支援法」について
第19回	・「社会福祉行政のしくみ」：福祉行政の実施体制、福祉専門職について
第20回	・「社会保障制度の動向」：少子高齢社会、社会保障制度改革
第21回	・科目のまとめ、 振り返り
第22回	評価試験

【試験・課題等の内容】

- ・社会福祉全般に関するもの（講義にて使用するプリントを活用）
- ・国家試験を参考にした問題

【評価方法】

- ・科目終了時客観試験
- ・校外学習レポート
- ・講義への取り組みに対する評価

【テキスト】

- ・健康支援と社会保障制度「社会福祉」

【参考文献】

- ・国民の福祉と介護の動向（2019年度版）
- ・看護6法
- ・福祉系雑誌、新聞等の時事問題に関する記事

【授業外における学修方法及び時間】

- ・校外学習（社会福祉協議会へ訪問）

専門基礎分野

【科目】 公衆衛生学	【単位数・時間】 1 単位（30 時間）	
【担当講師】 森田 直美	【開講時期】 第 1 学期	【配当年次】 2 年
【所属・職位等】 看護師・保健師		

【授業における到達目標】

疾病予防に関する概念を理解し、人が健康な生活を送るための公衆衛生的アプローチを学ぶ。

【授業の概要】

授業計画のとおり

【アクティブ・ラーニング】

教室内でのグループ・ディスカッション

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	公衆衛生のエッセンス
第 2 回	公衆衛生の活動対象
第 3 回	公衆衛生のしくみ
第 4 回	疫学・保健統計、国際保健
第 5 回	環境と健康
第 6 回	感染症とその予防対策
第 7 回	公衆衛生看護とは、母子保健
第 8 回	成人保健、歯科保健
第 9 回	高齢者保健
第 10 回	精神保健、障害者保健、難病保健
第 11 回	学校と保健
第 12 回	職場と保健
第 13 回	健康危機管理、災害保健
第 14 回	保健所見学（都城保健所）
第 15 回	保健所見学（都城保健所）

【試験・課題等の内容】

講義でふれた内容（制度やしきみ、法律や統計など）

【評価方法】

終講時客観試験

【テキスト】

統計看護学講座 専門分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院

【参考文献】

国民衛生の動向 2017/2018

【授業外における学修方法及び時間】

講義内容の予習・復習について1時間程度の自己学習に取り組む。

専門基礎分野

【科目】 関係法規 【単位数・時間】 1 単位（30 時間）

【担当講師】 柳田和憲・朝重久緒・村尾浩一・田中昭人

【開講時期】 第 1 学期 【配当年次】 2 年

【所属・役職等】 都城医療センター事務部 事務部長（柳田）
都城医療センター事務部 経営企画室長（朝重）
都城医療センター事務部 企画課長（村尾）
都城医療センター事務部 管理課長（田中）

【授業における到達目標】

- ・ 医事法の体系的理解と、その他保健医療福祉に関する法律の概要を理解する。

【授業の概要】

- ・ 社会の動向及び法律と関連づけて教授する。

【アクティブ・ラーニング】

- ・ 授業においては関連する科目（看護学概論、社会福祉）などを想起しながら理解する。

【授業計画】

回数	内容（方法）
第 1 回	法の概念
第 2 回	看護法①
第 3 回	看護法②
第 4 回	医療法①
第 5 回	医療法②
第 6 回	医療法③
第 7 回	保健衛生法①
第 8 回	保健衛生法②
第 9 回	中間試験
第 10 回	薬務法
第 11 回	環境衛生法 環境法
第 12 回	社会保険法

回数	内容（方法）
第13回	福祉法
第14回	労働法と社会基盤整備
第15回	終了試験・解説学習

【試験・課題等の内容】

- ・ 学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。
- ・ 終了試験は授業で教授した内容から出題する。

【評価方法】

- ・ 中間試験 50%
- ・ 終了試験 50%

【テキスト】

- ・ 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院

【参考文献】

【授業外における学修方法及び時間】

- ・ 毎回1時間程度の事前学習、事後学習を要する。